

平成 29 年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■共同研究 11	公益目的事業 19
主査名	井原健雄 香川大学名誉教授	
研究テーマ	地方都市の交通政策と各政策主体の役割と課題※※	
研究の目的： 地方都市における交通問題の実証的な調査研究を行うとともに、とりわけ政策志向の観点から、「地方自治体」を含む広義の「運輸行政」のあり方として、その意義と役割を検証することにより、有意な知見の導出とその活用を図ろうとすることにある。また、その具体として、地域公共交通に関わるより広範多岐にわたる政策主体が、それぞれ自主的に本来の役割を十分に果たすとともに、互いに協力と連携を行うためにはどのような創意と工夫が必要であるのか、ということについての〈問題意識の共有化〉を図り、有意な方途についての検討を試みるものである。		
研究の経過（4月～3月）： 〈事前の連絡調整〉 7月14日（金）および12月11日（月）に、本研究プロジェクトメンバーの有志により、当該研究プロジェクトを進めるにあたっての意見交換と事前調整を行った。 〈研究会〉 7月15日（土）今年度の研究活動の進め方について意見交換を行った。また、四国運輸局交通企画課長の小川剛史氏と、香川大学客員教授の三好勝則氏により、「最近の四国の運輸概況」と、「運輸行政のあり方」に関わる組織間の連携について、それぞれ有意な知見の披露があり、本研究メンバーの相互理解の深化に努めた。 1月22日（月）研究対象とした2自治体へのヒアリングを行うために、〈問題意識の共有化〉を図った。 3月21日（水）ヒアリング結果の報告を行い、“ぐるっと高松”公共交通を育てる会代表の宮本美枝子氏と前出の小川剛史氏から、これまでの市民活動経験や行政経験を踏まえ、公共交通について忌憚のないご意見を伺った。 〈ヒアリング調査〉 2月19日（月）本研究プロジェクトメンバー4名が、つるぎ町へヒアリング調査に伺った。 2月23日（金）および3月16日（金）本研究プロジェクトメンバー4名が、高松市へヒアリング調査に伺った。		
研究の成果（自己評価含む）： 本研究では、公共交通分野で優良事例として紹介されたこともある四国内の自治体で、人口5万人以上の自治体から香川県高松市を、小規模自治体から徳島県つるぎ町を取り上げた。両自治体の交通政策について、「地域公共交通網形成計画」が地域住民の暮らしを支えることを念頭に置いた計画になっているか、「二層の Principal-Agent 関係」が機能しているか等について、その実態と要因等を探った。		
今後の課題： 自治体ごとに人口規模の格差が大きい地方都市において、住民の暮らしを支える“血の通った”計画策定とその実行のために、地域公共交通に関わる政策主体が、それぞれ自主的に本来の役割を十分に果たしながら、互いに協力と連携を行うためにはどのような創意と工夫が必要であるのか、さらなる吟味検証を行う必要がある。		